

富士見市中期基本計画市民検討会議会議録（第5回）

日時：平成25年5月2日(火)
午後7時～9時30分
場所：市長公室

出欠状況

委員長					
新井	岩田	加光	加藤	川上	齋木
○	○	○	○	○	○
関根	田尻	藤橋	南	横山	吉崎
○	○	欠	○	欠	○
その他		まちづくり推進部副部長、産業振興課副課長			
事務局（政策企画課）		総合政策部長、課長、副課長、寶田			
傍聴者		2名			

内 容

1 開会 政策企画課長

2 委員長あいさつ

3 内容

(1) 前期基本計画第4章の進捗状況・課題等の確認・検討

- ・資料に基づき、事務局から説明をした後、まちづくり推進部副部長及び産業振興課副課長（以下、副部長及び副課長）より補足説明

○ 意見等

<第1節 農業の振興>

委員：農地が少なくなる中で就農意欲を向上させるのは難しい。

副部長：後継者、新規就農者、どちらも大切だと考えている。体験型農園の活用なども含め、有効な施策を考えていきたい。

委員：毎月第3火曜日、市役所本庁舎1階のロビーで開催している臨時農産物直売所「つきいち」の認知度が低い。市役所に来たらたまたま開催していて知ったという方も多い。生産者は食の安全に気を遣い、いいものを作っているという自負がある。例えば、母親学級の開催時間と合わせるなどの工夫をして、小さいお子さんのいるお母さん方に知って欲しい。

副部長：ホームページや広報だけでなく、認知度を高める方策を考えていきたい。

副課長：市民の方から、市役所だけでなく地域でも地元産の野菜を販売して欲しいとい

う要望をいただいている。空き店舗を利用するなど、商業との連携も必要であると考えている。「富士見市の野菜はよい」ということを市民のみなさんは知っているの、販売する場所や宣伝をすることでさらに広げられると考えている。消費者と生産者が、顔と顔とが分かるというつながりの中で地産地消を進めていきたい。

委員：地元野菜を売っているスーパーでは、ほかの野菜よりも先に売れてしまうほど人気がある。「誰々さんの野菜だから私は買う」という人もいる。以前は、農協の支店でも販売していたが、最近はなくなってしまった。人が集まってくる場所や駅前販売すればよい。

委員：わざわざ車で行かないといけない場所ではなく、近所の商店街や空き店舗で買えれば便利。

委員：リブレードという言葉があるが、いつになったら整備されるのか。

部長：国・県の治水対策との兼ね合い等もあり、遅れてしまっている。

委員：「富士見市生まれ」のシールに認知度の高い「ふわっぴー」を使ったらよい。

委員：新しく大規模な農業施設や機械を導入するときなどは認定農業者のメリットがあるが、それ以外ではそれほどのメリットがない。資材が高くなっていくにもかかわらず販売額が減っている現状の中で、若い農業者は不安を持っている。大手企業が、ビルの中で農薬を使わず作物を栽培する時代に、就農意欲の向上は難しい。商工会とのコラボレーションも有意義だとは思う。

委員：地域・自治シンポジウムの関連で「富士見市の休耕地を有効に活用して農業をやってみよう」というコンセプトで「もやい村」という取組みがある。農地を持っている方に、体験型農園のメリットを説明してもらいたい。また、出前講座等を利用し、「もやい村」の事業を宣伝して欲しい。自由に使える耕運機の購入についてもご検討いただきたい。

<第2節 商工業の振興>

委員：農商工それぞれで発行しているパンフレットを統合した方がよい。

委員：インターネットの店舗紹介で星印のついているようなお店がパンフレットに掲載されていない。また、通常のかぶだと2束100円くらいだが富士見市産は150円くらいする。それでも、一番先に売れてしまう。こういった状況を把握するような調査が必要ではないか。行政の人も実際に店に足を運んでもらいたい。

委員：「一店逸品」のパンフレット作成には、市は関与しているのか。

副課長：会議に出席し議論にも参加するなどして協働で作成している。

委員：北九州市には、市の魅力を紹介する「雲のうえ」という情報誌がある。市場や生産者などを取材して紹介するという内容だが、ビジュアルの表現などが素晴らしい。同じような取組みをすることが富士見市で可能ならば、どこに相談したらよいか。また、「こうしたらよくなる」というアドバイスがあるとき、どこに働きかけたらよいか。

副課長：パンフレット作成に際しては行政も参加しているが、事業主体は商工会である。

委員：行政ができること、商工会ができること、民間ができることを横断的につなぐ仕組みが必要。その仕組みがあれば、もしかすると100万円かかっていたことが10万円ですることができるようになるかも知れない。行政に要望するというだけでなく、どのようにすれば我々市民が協力できるのかということをお教えいただきたい。

副課長：行政はなかなか柔軟な発想ができないのかも知れない。現在の取り組み状況をみなさんにお知らせし、みなさんから新しい提言を受ける、その提言を受けて進め方を考えるのは行政だと思う。

<第3節 勤労者福祉の充実>

委員：就業支援講習会の内容を知りたい。

副課長：カラーコーディネーター講座・メーキャップ講座は、女性の再就職のための講座。会話・コミュニケーション講座は、面接の際等に自分をアピールする力を養成。パソコン講座は、内職を希望する方向けの講座。なお、若者向けのセミナーは、市単独で実施するよりも広域で実施した方が効果があるだろうということで、富士見市・ふじみ野市・三芳町で構成する広域の事務連絡会において実施している。

委員：「就労機会の拡充」を小柱にした方がよいのではないかな。

<第4節 地域活性化の推進>

委員：ホームページのフィルムコミッションのページは、プレス（報道機関）向けの入り口はないのか。

部長：今のところない。検討したい。

委員：ホームページの構成があまりよくない。ホームページのアクセス数やログ（閲覧履歴）の分析をしているか。アクセスする人が何を知りたがって来ているのか、また、それを探せずどこで離脱したのか等を解析してホームページは作るものである。

部長：アクセス数は分かっているがログの分析まではしていない。表面上はリニューアルしたが中身まではまだできていない現状。

委員：「サイクリングコース」「道の駅」など、埼玉県は自転車（「バイコロジー」）に傾倒している。県との連携も必要。情報発信の仕方でも連携することも必要。

部長：サイクリングコースは、県とリンクした事業。連携しながら進めていきたい。

委員：「カワヅザクラ」よりも富士見市らしい植樹はなかったか。

部長：今後、富士見市としてどう特徴づけていくか、戦略的に考えなくてはならない。市の花である「フジ」は、きれいに咲かせるのが難しい。富士見市の花は「フジ」と自信をもって言えるようにしていかなくてはならない。

委員：流行に左右されずまち全体の文化を俯瞰していかないといけないと思う。長く富士見に住んでまちのことをよく知っている方、問題意識を持っている方たちでNPOなどの組織を作って進めていった方がいいのではないかな。

委員：「お金がないからできない」と行政だけで進めてしまうのではなく、専門家がま

ちのために無償でもいいからアドバイスしたいということがあるので、市民の知識や経験をうまく活かして欲しい。

委員：ソーシャルネットワークサービス等を使い、細かな意見を集約していくことができるのではないか。

委員：カワヅザクラの市民オーナー制度を進めているが、市の花のフジがあるので、フジを活かしたまちづくりで富士見市のアイデンティティを大切にしたい。

委員長：「南畑は緑があっていいね」と言われるが、住んでいる者にとっては、駅からも遠く、また、緑を維持していくためには努力も必要でそれなりの苦労がある。これからは優良農地といえども農業者だけでそれらを守っていくのは大変なことだということで、農業者でない方も含めて農地を守っていこうということで草刈や菜の花の植栽などの取組みが始まり、それが「菜の花フェスタ」の開催につながっている。こうした活動で、地域の絆が非常に強くなった。ただし、交付金申請の手続きがもっと簡素化できればよいと思う。

委員：熊本のくまモンが生まれたプロジェクトを仕掛けた方のセミナーで、「各地で地域活性化に取り組んでいるが、みんな厚化粧している。厚化粧ははげたときにがっかりするからすっぴんのよさを知ってもらおうよ」という話があった。富士見市で考えてみると、富士見市の人たちが富士見市のすっぴんのよさに気付いていないと思う。みんながまちを愛せるようなまちづくりをできるシステムづくりをするのが行政の仕事ではないか。

委員：新河岸川沿いのサイクリングコースには、歴史のある河岸があったのにそのことに触れる看板が何もない。公民館を「自転車の駅」というキャンペーンをやっているが、公民館を知らない人はどこにあるか分からず、ネットワークになっているとは言えない。せっかくあるサイクリングコースなのだから、もっと活用しないともったいない。

委員：昔の面影がなくなってしまった。均一的に開発してしまうのではなく、富士見らしいところは残した方がよい。

委員：昼間は気が付きにくいですが、夜にまちを歩くと、街路灯の種類が何種類もあり統一感がない。同時には無理だと思うが、徐々にでも揃えていった方がよい。

(2) 次回以降の会議日程について

5月15日(水)午後7時00分 市長公室

5月 下旬(水)午後7時00分 市長公室

4 閉会 総合政策部長